

2024年度 第2回 鋼構造座屈小委員会議事録(案)

1. 日時 2024年9月2日(月)15時00分～17時40分
2. 場所 日本建築学会 307会議室, Zoom のハイブリッド
3. 出席者 五十嵐規矩夫, 宇佐美徹, 金尾伊織 (主査), 木村祥裕, 倉田真宏, 小橋知季
田川浩, 中澤祥二, 松井良太, 城戸將江 (記録)
(敬称略, 下線は欠席者)

4. 配付資料

- 02_00 2024年度第2回鋼構造座屈小委員会議事 (金尾)
- 02_01 第1回座屈小委員会議事録 (城戸)
- 02_02 02-02-2024年度第2回 鋼構造運営委員会議事録 (案) (金尾)
- 02_03 5章柱材【城戸】20240902 (城戸)
- 02_04 6章_目次案+本文・解説イメージ (小橋)
- 02_05 刊行委員会需要根拠資料-0902

5. 議事内容

資料02-01

・資料02-01に基づき前回議事録の確認を行い, 一部誤字を修正することを条件に承認された。

資料02-02

鋼構造運営委員会 (7/29) について, 金尾主査より報告がなされた。座屈小委員会関連として, 座屈諸問題英文化については岡崎先生, 佐藤先生にすでに査読していただいている。本委員会査読の査読者は薛松濤先生と西村督先生とのこと。

関連して, 松井委員より諸問題英文化のプロモーションとして, アメリカNASCCのSSRCのセッションに, 倉田委員, 松井委員でアブストラクトを提出したとのこと。AIJへの報告の必要性については, 学会の名を冠して投稿するのであれば報告が必要であろうとのことであった。

資料02-05

諸問題の英文化の刊行について, 刊行委員会に提出する需要根拠資料について金尾主査より説明がなされ, 出席者で検討を行った。英文書籍は国外での需要の妥当性を示す必要がある。1000部見込んでおりその内訳については問題ないが, SSRCで関連する論文を3~4編出すという文章については, 倉田委員に論文とはどのようなものか確認し, 必要に応じて修正し, 締め切りの9/15までに提出することとなった。

現在, SSRCからの査読結果は1章のみ戻ってきているとのこと。9月半ばに回答がないとスケジュールが厳しくなる, 11月には運営委員会, SSRCの査読対応を終了しておく必要がある。

資料02-03

資料02-03に基づき柱部材の指針原稿案について城戸より説明がなされた。

評価式という表現があるが, 設計者に使ってもらうためには建築基準法との関係について示す必要があることを確認した。例えば, 告示の適用範囲を超えているが, 座屈設計指針の耐力評価式でより精緻な耐力評価をすることで安全であることが確認できる, というような内容とできればよい。また, その耐力評価式が, 告示に示された式に対してどのような関係となっているのかなども示す。

応用的な内容とし, 使える人には使えるという情報を掲載する。

資料02-04

資料02-04に基づき板要素の指針原稿案について小橋委員より説明がなされた。

本文が少なくなってしまうのと、本文と解説を分けると読みにくくなると思われるが、本文中に、解説〇〇に示すというようにどこを見ればよいかわかるようにしておく。

柱材、板要素の議論を通じて以下のことを決定した。

本文と解説はわけて示す。

全体の統一感が必要になってくるため、梁材の案を金尾主査が示すこととなった。また、評価式は複数あるが、本文に掲載する式で解説の内容が変わってくるため、本文にどの式を載せるかをまず決めたほうが良い。

データベースは、掲載できる章だけでよい。

次回委員会に向けて

- ・本日の議論を踏まえて、少しずつ指針執筆を進めていく。

6. 次回小委員会予定

日時：2024年11月末～12月初旬で日程調整する。

場所：対面あるいはハイブリッド（京都開催を予定）